

幸常関 議会報告

第16号
2009.10

発行責任者
南魚沼市議会議員 関 常 幸
南魚沼市浦佐2015番地
TEL025-777-2245



1期・4年間を振り返る！

早いもので、アツと言う間の四年間です。この四年間を振り返ったとき、62千人市民の皆さんの負託に応えたのだろうか、代弁者として皆さん一人一人の声を市政に反映出来たのだろうか、と考えると不安になる…！

でも、皆さんと一緒にいい汗を一杯かかせてもらい、仕事を一杯した。まだまだスタートしたばかりだが、特に「毘沙門様千年のまちづくり」と「浦佐西山の整備」だ。そして「魚沼基幹病院とやまと病院」「学力の向上」「子育て支援」「コシヒカリ」「認定子ども園」「働く場の確保」と止まることなく走った。

昨年の秋、地球規模での百年に一度とも言われる金融危機に始まった経済不況の原因はアメリカ発だが、私どもの仕事が減ったり会社が無くなったのは、“国が政治が適切に対応”しなかったからだ…。政治の責任は重い。

18年9月、自民党の安倍総裁が第90代・57人目の首相として誕生した。小泉政権の改革路線は国民の高い支持を得たが、地方や農業に冷たく、改革の「ひずみ」や格差が生まれた。安倍内閣はこれを是正すると期待されていたが、1年間の短命内閣で終わった。19年9月に福田内閣、20年9月に麻生内閣と、まさに「政権のたらい回し」だ。これでは“市民のための政治”が出来るとは思えない。この間、多くの国民は政治不信におちいり、なるべくして「民主党政権」となった。

南魚沼市の4年間は「終わり良ければ未来は拓ける」に代表される。17年12月の初議会で、市の財政は新潟県でワースト1と聞き、正直ショックを受ける。この4年間、財政健全化に始まり財政健全化で終わった。この4月、財政健全化のメドがついたとして職員の給与5%カットを元に戻す。そして、1月から始まったNHK大河ドラマ「天地人」の放映。

経済が底冷えしている中、他市町村がうらやむほど観光客が来ている。この千載一遇の好機を一過性に終らすことなく、まちづくりに地域の活性化のスタートとしなければならない…。

4年間、私を支えてくださった多くの皆さんと家族に感謝し、新たなる覚悟でスタートする所存です。



任期最後の9月定例議会最終日

●●第64回「トキめき新潟国体」連日の県勢の活躍に興奮する！●●

9月27日、自転車ロードレースが三国川ダムしゃくなげ湖(一周37km)周回コースで行なわれました。成年男子は4周、少年男子は3周で競技が行なわれ、井口市長の号砲一発・選手は一斉にスタートしました…。凄い迫力です。持久力、登坂力、判断力、テクニック、スピードの総合力を競う選手に沿道の声援は励みとなった。



自転車(ロード・レース)



テニス(於 大原運動公園テニスコート)

大原運動公園では10月2日～5日まで郷土の期待を背負って、競技が連日くり広げられ、息詰まる熱戦にコート上はシーンと静まり、一球の打ち合いのボールが終るたびに、大きな拍手がわきおこります。まさに最後まで平常心で戦い抜くメンタルな競技です。

● 一 般 質 問 ●

おはようございます。昨日は第23回浦佐耐久山岳マラソンに公務多忙の中、市長・議長から出席頂きありがとうございました。

全国から2000名の参加があり、2周フルマラソンの部は昨年より参加者が増え300名になりました。事故も無く盛会のうちに終わりました。

これも大会を支えた200名からのボランティアの皆さんのおかげです。そして役員の中核を担ってくれた市の職員の皆さんに感謝いたします。ありがとうございました。

さて、先に通告いたしました2点について質問いたします。

「危機管理」について

もう2年前位になりますか、国交省の事務次官を退任した佐藤信秋氏が参議院議員になる前に六日町に来たときの講演で、「国の防災担当は1日24時間休む時間は無い」と話された言葉が、ずっとインプットされている。

市長、この7月、8月に体感も通じ地震の発生の回数が多かったことは知っていると思いますが、新潟県で発生した回数は14回（9地域）で、新潟県が含まれる中部地方と言うと54回（24地域）になる。関東地方は45回（39地域）。

中越地震から5年、中越沖地震から2年経ちましたが、被災地は今なお生活再建のメドが立たない人がいると聞く。先の中越地震は、震源の南側にある六日町断層が動いて起きたとする見方が研究者の間で報告もされている。

市民の生命および財産を災害から守り、保護することが行政に与えられた責務であることは論を待たない。昨年11月に作成された防災計画を見るに万全な体制のようだが、災害に対する日々の職員体制は万全か何う。

〈市長答弁〉

現在の職員体制は総務課・人事庶務班のなかで、兼務で業務をしているので、21年度の機構改革の

中で専任体制をとる。

「文化(美術館)、スポーツ施設(野球場)」の再構築について

南魚沼市の将来の「まちづくり・ひとづくり」に欠かれない両施設のあり方について、市長の考えを伺う。

今泉博物館は平成2年に塩沢出身の今泉隆平氏が、トミオカホワイト美術館は平成9年に柏崎出身の富岡宗一郎氏が、池田記念美術館は平成10年に池田恒雄氏が、棟方志功アートステーションは平成10年に田中正之氏が、それぞれの町との関わりの中で寄贈および建築され現在に至っている。

四カ所の美術館とも市民および市の貴重な財産であり、宝でもあり、後世に残していかなくてはならない。しかし、年々入場者が少なく厳しい運営を余儀なくされており、このままの管理運営では将来閉館しなくてはならないのではないかと。そして、市の宝物が埋もれ・市外に流出すると危惧している。将来の四施設のあり方について、市長の考えを伺う。

昨年の秋（市長選挙）から野球場建設の是非が市民の間でとりあげられているが、野球場だけを特化するのではなく、市内のスポーツ施設はどうあるべきかということも併せて議論しなくてはならないのではないかと、市長の考えを伺う。

〈市長答弁〉

今泉博物館は「道の駅」に、他の美術館は閉館はしない。将来の管理運営のあり方について研究検討するよう指示をした。

大和は医療福祉・学園のまち、六日町は行政・商工業のまち、塩沢は観光・スポーツのまち、その構想に基づきまちづくりをすすめている。

現在、塩沢の大原運動公園は野球場・多目的グラウンド・テニスコート（20面）が整備されている。今後、総合運動公園としての利便性向上や新たに必要施設を充実することにより、都市公園・観光交流・市民の健康づくり・教育効果といった複合的な役割を担う公園整備を目指す。そのために市民参加による「大原運動公園整備検討委員会」（公募、地元代表等）を10月中旬に立上げ、野球場建設も含め議論してもらう。

7月4日千年のまちづくりシンポジウム



7月20日浦佐夏まつり

7月22日行政(牛久市)視察



8月1日裸押合記録保存総会

8月7日～17日毘沙門堂山門ライトアップ



議会での主な一般質問と提言

4年間35項目の市政の課題について、議場で市長に“市民の声・現場の声”をぶつけました。一般質問で常に心がけたのは、市長の施策に対し私が市長であれば“このようにする”又は“新たな提案”をした。以下、主な質問の概要を載せました。

<H.17.12> スキーの誘客は年々激減しており、地域経済に及ぼす影響は大きい。企業誘致が厳しい今、観光を核とした広域的な新たな誘客を図らなくてはならない。新生南魚沼市の発展に観光協会の早期の合併は不可欠。

<H.18.3> 仕事の速い人も遅い人も、ほぼ同じ給料で推移する公務員の年功序列での給与体系。仕事の出来る人には正しい評価をし、給与待遇の面で優遇する「人事評価システム」（一般企業では当たり前）の導入は必要。

<H.18.6> 県内旧111市町村で市町村誌が発行されていないのは、大和町を含め3町村だ。大和町史は昭和52年に上巻、平成3年に中巻が刊行され、明治以降の下巻が未刊のまま。市民参加で編集委員会を立ち上げ早急に刊行すべき。

<H.18.9> 新潟県は、大学進学率が低く教育後進県と言われている。平成に入り多様な教育効果で平成5年度に24.5%の進学率が平成17年度では40.6%となり、全国順位も46位から32位に上がった。子どもたちの将来の自己実現のために、当市で「中高一貫教育」を導入する考えは。

<H.18.12> 次年度から米の生産調整の事務局がJAに移行するが、行政の支援は。米の生産販売戦略の窓口が2つ（JA）でなく、JAの合併を進めるべき。ますます激化する産地間競争に行政もJAと一体となり営業担当者をおくべき。

<H.19.3> 塩沢では「牧之通り」、六日町は「坂戸城の城壁」、浦佐は「毘沙門様千年のまちづくり」とそれぞれの地域で、歴史・文化・街並み・自然等の景観整備が進められており、「景観行政団体」になるべきと考えるが。

<H.19.6> 21年に放映されるNHK大河ドラマ「天地人」は、観光客誘致に、国体や各種イベントの比ではない。当市を全国に売りだす千載一遇のビッグ

チャンスで二度とない。専任の担当部署を設置すべき。観光客の入り込み数の目標は。

<H.19.9> 実りの収穫が終り、日本一の魚沼コシヒカリをエネルギーに、全国の鉄人が八海山を仰ぎ魚野川や溪谷・兼統公の史跡や雄大な自然の中を走り抜ける。南魚沼市の新たな発信と誘客につながるが100kmマラソンの創設は。

<H.19.12> 今一番懸念していることは、八色の森公園付近や学園都市にふさわしくない看板や、けばけばしい色彩の建物・八海山の景観をそこなう高さの建物が出てくること。来年以降、基幹病院の概要が見えてくると、企業や不動産の動きが一層活発になる。景観行政団体の取得が遅い。景観計画作成のスケジュールは。

<H.20.3> ついに日本は食糧自給率40%を割った。日本人の胃袋を命を食卓を外国に依存しているのか、3点を問う。①補助金のバラマキでなく「担い手の支援」の充実。②「集落営農集団」の育成が遅々として進まないが。③飼料の高騰で17戸の畜産農家は危機的状況だ。

<H.20.6> 企業誘致の体制は、商工振興班7名の中に担当者がいるが、東京に出向いて企業訪問や情報収集が出来る体制でない。専任体制を作り東京に常駐させる考えはないか。

<H.20.9> 北里大学保健衛生専門学院は、国家試験合格率100%取得をモットーにしている日本一の専門学校ですが、少子化の波が押し寄せている。当市の「学園都市構想」「基幹病院」を核としたまちづくりに当学院の存在無くしては考えられないが。

<H.20.12> 先般行なわれた魚沼市長選挙では大平新市長が誕生したが、前市長とは「基幹病院」「工業団地」の推進について微妙にスタンスが違う。魚沼市との連携無くしては安全安心なまちづくりが進まないが。

<H.21.3> 百年に一度の大不況と言われ、国も地方も大変な状況だ。経済の活性化・雇用対策に「農業振興を」と声を大にして提案する。具体的には椎茸、農産加工、農産物直売所の拡充設置。

<H.21.6> 2年間で十数回におよんだまちづくりのワークショップの行き先は「毘沙門様」に似合った街だ。ところが新幹線浦佐駅停車を受け、旧大和町の人口が倍の3万人になると予想した都市計画が生きている。3万人にはならないがその見直しは。

8月23日後援会夏季研修



8月9日一日いきゅうさん



9月6日第23回耐久山岳マラソン

9月11日毘沙門堂でジャズ講演



9月13日浦佐地区敬老会

★9月定例議会おわる（9/1～17）



議場にて

今期で勇退を表明した8名の先輩議員は、どんな心境で本議会を迎えたのだろうか。新市の基礎作りと発展にご尽力され本当にご苦労さまでした。

9月議会は決算議会と言い、平成20年度の会計決算認定を行なう。21年度一般会計補正予算は、国の経済支援策を受けて、25億2400万円の大型補正を議決する。

●25億2400万円の概要（一般会計総額は324億円に）

- ・下水道特別会計へ（9億62百万円）借金残高削減のための繰り上げ償還
- ・光ファイバー工事（7億80百万円）市内全域で使用可能。後山・辻又は無線

- ・介護施設整備事業（2億73百万円）グループホーム、ミニ特養等への施設整備
- ・子育て応援特別手当（58百万円）就学前3カ年の子が対象36,000円/人（10/1基準）
- ・プレミアム商品券（50百万円）11/4～20販売、発行予定額3億円、プレミアム20%
- ・雇用創出事業（44百万円）毘沙門堂等の駐車場の誘導員

●平成20年度決算状況

会計名	歳入決算額	歳出決算額	収 支
一般会計	300億2千万円	291億9千万円	8億3千万円

収支は8億3千万の多額となり、財政調整基金に4億9千万円積み立て黒字となった。

★中越地区市会議員合同研修会

今年は見附市で開催される。見附市は私がJAの営農指導員として最初に赴任した場所で思い出深い。昭和45年から見附市葛巻農協に4年間お世話になったところだ。

研修は「食と農」の今と未来を考える」と題して、駒澤大学教授であられる姉齒暁先生の講演。姉齒先生は、県立新潟女子短期大学で教鞭をとられている時にJA時代数回話しを聞いており、「食と農」について造詣の深い方だ。今日も日本の農政について厳しく糾弾した。日本がWTOやEFTAの国際交渉で農産物の関税を撤廃すれば①食糧自給率は40%から12%へ②国内農業生産はマイナス約3兆6千億円（現在約8兆5千億円）③全就業機会の喪失：約マイナス375万人（農業従事者への影響も大）。

まさに農は「国の基」である。確かな未来ある農政を望む。



講師の姉齒先生

●編集後記●
 実りの秋に10月を経営している古老が「これからも、安心してコシヒカリを作って行けるのだろうか...」の問いに「大丈夫！」と応えたその夜は、なかなか寝つけれなかった。農政は不安であっても、秋の収穫は私たち百姓に別の喜びを与えてくれます。
 メールや電話で「常さんのホームページ」見たよ。頑張ってるね。応援してるよ。の言葉に勇気づけられ、眠い目をこすりパソコンに向かう。私のホームページ「関常幸」で検索ください。朝晩めっきり寒くなりました。健康にご留意ください。

NHK大河ドラマ「天地人」の影響で、本当にこの土地を訪れる方が増えました。来た人たちに「住んでいる人たちが輝いている！是非また訪れたい！」と思われるような地域づくりを、関常幸議員を中心として、皆さんと共に取組んで行きたいと思っています。
 南魚沼市は合併して4年、土台の基礎作りが終り、これからが本当の意味での6万2千南魚沼市民の方向付けが決まる大事な4年間となります。そして、大きなプロジェクト（魚沼基幹病院、野球場建設問題を含めた総合運動公園、図書館建設等）、や「教育問題」「医療・福祉・介護・年金」の社会保障の危機、働く場の無い「経済の危機」、「コシヒカリ」「農業の危機」、「財政の健全化」と多くの政治・行政課題があります。関常幸さんが思う存分議員活動が出来るように後援会として支援してゆきたいと思っています。みなさまの絶大なご協力をお願い申し上げます。



次世代と明日のために
 関常幸後援会長 北村洋成